

なべたんの

極力直そう in ときわ台

令和元年10月26日

第2号

発行：なべたん

能勢妙見山の参拝の折に、ふとしたことからときわ台に足を踏み入れたなべたん。自然と住環境が密接に結びつくときわ台を散策していると、とんでもないものが目に飛び込んできた。

失われた公園の柵のキャップ

ある日、ときわ台周辺住民の心のオアシスであるところのスーパーマーケット「阪急オアシス」で買い物を終えたあと、なんの気なしに周辺を歩いていると、すぐ裏にある東ときわ台3丁目公園で、あるものが視界に飛び込んできました。

「柵のキャップが無いじゃん！」

公園の外周を取り巻くように設置されている柵の上部についているキャップが無くなっていたのです。キャップが付いているものが多数なのですが、それにしてもかなりの数のキャップがなくなっており、なんだか気持ち悪くないですか？正直、別に……って気もしますが、逆に直さない理由も無いですよ？ここから柵が朽ちてきているようにも見えるし。というわけで、3Dプリンターを使ってキャップをつくることにしました。

周囲にある柵のキャップを観察すると、1つのことが理解できます。柵もキャップもどれもだいたい同じかたちをしているということです。その道のプロが見たら「1つ1つ違うんだよ」とたしなめられそうですが、少なくとも今の自分には同じかたちに見えます。ですから、残されたキャップと同じものをつくり出すことができれば、この柵も直すことができる。そのように考え、早速残されたキャップを採寸することにしました。



＜現場周辺の地図＞



＜現場の様子＞



＜失われた柵のキャップ＞

採寸する

採寸にはノギスを用います。まず早速、残されたキャップを採寸し、幅や奥行き、柵から頭をのぞかせている部分の高さなどを測ります。

(掲示板でこの記事をご覧になっている方で続きをご覧になる方は、のせでんアートラインのウェブサイト(コラム→連載記事)をご覧ください)



のせでんアートライン 2019

令和元年10月26日(土)～11月24日(日)

ウェブサイト：<http://www.noseden-artline.com/2019/>

問い合わせ先：info@noseden-artline.com

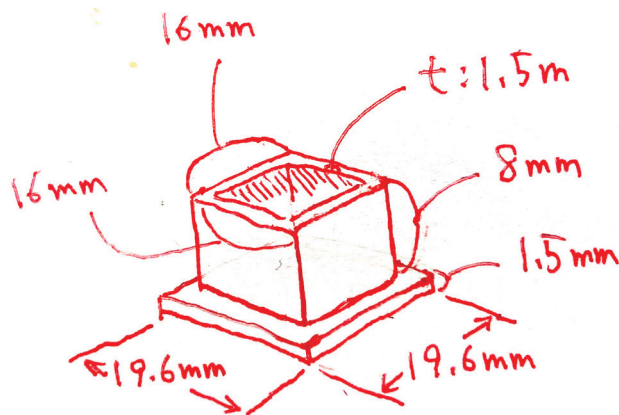
主催：のせでんアートライン妙見の森実行委員会／実行委員長：三好庸隆(武庫川女子大学教授)

[構成：能勢電鉄株式会社、兵庫県、大阪府、川西市、猪名川町、豊能町、能勢町、宝塚大学]



まず柵から覗かせている部分の幅や奥行きはそれぞれ19.6ミリメートル。また厚みは1.5ミリメートルでした。また柵の上部の差込口の一边は16ミリメートルでした。キャップが取れてしまった差込口の内部に残されたキャップの残骸から、差込口に差し込む部分は中空になっており、厚みは1.5ミリメートル、高さは8ミリメートルであることがわかりました。

この結果に基づいてポンチ絵を描きます。



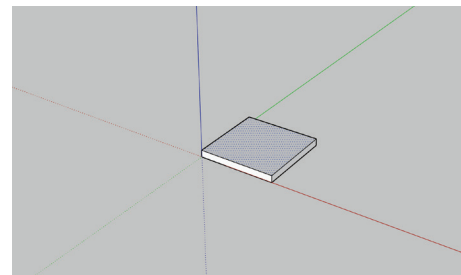
モデリングする

次にポンチ絵に基づいてモデリングをします。実際のキャップの向きとは天地を逆にして、モデリングをしていきます。まずは柵から頭を覗かせている部分のモデリングです。

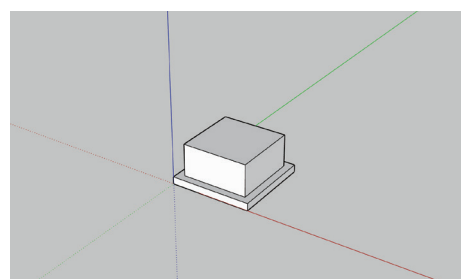
まず、一边が19.6ミリメートルの正方形を描きます。そして、プッシュ／プルツールを用いて1.5ミリメートル上に持ち上げます。上部が正方形の直方体が出来上がります。

次に差込口に差し込む部分を作ります。先ほど作った直方体の上面の中心部に、一边16ミリメートルの正方形を描きます。そして、プッシュ／プルツールを用いて8ミリメートル上に持ち上げます。だいぶらしい形になってきました。このままでも十分に昨日するとは思いますが、差し込む部分は、中空になっているので、その部分を再現します。いま作った差し込む部分の上部の真ん中に一边13ミリメートルの正方形を描きます。ここで三たびプッシュ／プルツールを用いて今度は逆に8ミリメートル下に押し込みます。

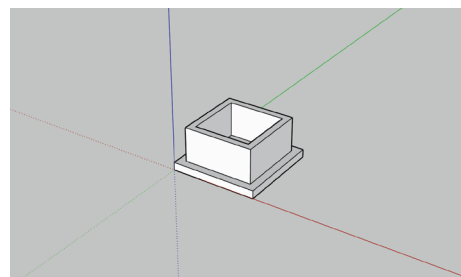
これでモデリングは終了です。



＜キャップ部分をつくる＞



＜差込口部分をつくる＞



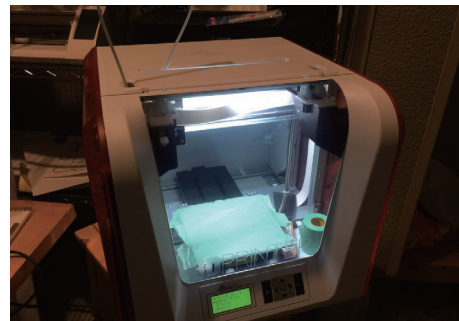
＜完成＞

3Dプリンターで出力する



今回もXYZprinting社の「da Vinci Jr. 1.0」を使用して出力します。さっそく、付属のソフトウェアを起動し、キャップたちを配置します。最終的に50箇所程度直すことになるので、数回に分けて出力します。それではいざ出力です。出来上がりました。およそ3時間。多少バリ(細かい突起)ができますので、お好みでヤスリなどをかけてください。

とにかくキャップが気になって仕方がないので、即座にときわ台に向かいます。



3Dプリンター

極力直す



北摂台に帰ってきました。早速、現場に向かうと、やはりキャップがなくて気になります。何か大事なものを忘れているような、淡い気持ちになります。そんなに横木に思い入れがあるわけではなかったのですが、できれば気持ちをすっきりさせたいので、さっそく取り付けます。

無事取り付けることができました。周囲と見比べても違和感はまったく無いです。とても自然な仕上がりです。



極力直されたキャップ



最後に



今後、ときわ台の周辺で、柵のキャップが欠落してしまった場合に備えて、今回作成したデータをThingiverseで公開しておきます。右側のQRコードからダウンロードしてください。オープンな形式(パブリックドメイン)となっていますので、周辺の方、ぜひお役立てください。



Profile 渡邊朋也 a.k.a なべたん

2006年多摩美術大学美術学部情報デザイン学科卒。コンピュータやインターネットといったメディアテクノロジーをベースに、インスタレーション、映像作品、ダジャレ、エッセイなどを制作する。ポストインターネット時代に新たに開かれた人間の認知を取り扱い、何の役にも立たない奇跡的な状況を、論理的かつ体験的に構築。その超越性の発露は時におかしみを伴い、鑑賞者の笑いを誘う。近年の主な展覧会に、「信頼と実績」(京都, 2017)、「フィットネス。 | fitnss.show」(東京, 2016)、「みえないものとの対話」(福岡, 2015)、「マテリアライジング展Ⅲ」(京都, 2015)、「Affekte」(エアランゲン/ドイツ, 2014)など。落合博満を敬愛している。